

平成 2 9 年 第 1 9 回

江戸川区教育委員会定例会会議録

日 時：平成 2 9 年 1 0 月 1 3 日（金）午後 3 時

場 所：教育委員会室

教育長	白井正三郎
教育長職務代理者	松原秀成
委員	石井正治
委員	古巻勲
委員	上野操

事務局	教育推進課長	柴田靖弘
	学務課長	川勝賢治
	指導室長兼教育研究所長	市川茂
	学校施設担当課長	高橋和彦
	統括指導主事	中山兼一

書記	教育委員会事務局	
	教育推進課庶務係長	岡田隆史
	同 主査	栗間大介

白井教育長	<p>開会時刻 午後3時</p> <p>ただいまから、平成29年第19回教育委員会定例会を開催します。日程第1、署名委員を決定します。石井委員と上野委員にお願いします。続いて日程第2、教育関係事務報告にまいります。はじめに、教育委員会後援名義の使用承認についての報告をお願いします。</p>
柴田教育推進課長	<p>お手元の使用申請一覧をごらんいただきたいと思います。行事名が第9回船堀映画祭でございます。申請者は、実行委員会会長でございます。今回で9回目の申請です。同様に区の後援名義の申請もしているということでございます。</p> <p>事業の目的、概要でございますが、住民参加型の映画祭によって、文化面でのまちづくり、地域振興に寄与することを目的とするというものでございます。実施日時は、平成29年11月11日土曜日から12日日曜日、タワーホール船堀、船堀シネパルにおきまして、一般区民を対象に行われます。経費の徴収でございますが、映画鑑賞券として前売りは500円、当日は700円ということでありまして、後援名義の使用についての申請でございます。</p> <p>こちら、チラシのコピーで白黒で恐縮でございますが、お配りしてございます。それと上映のスケジュールということで、2枚提出させていただきました。</p> <p>今回は、2枚目のスケジュールのほうをちょっとごらんいただきたいと思いますけれども、上映作品から一つだけご紹介させていただきます。上から2段目、シネパル1の初日、土曜日に「ルドルフとイッパイアッテナ」というのが上映されますけれども、これは原作が北小岩を舞台のイメージとした絵本でして、その原作者、斉藤洋さんという方、下から2段目のところにゲスト、と書いてございます。その方から二日目には挨拶があるということでございます。</p> <p>昨年、タワーホールで上映がありましたけれども、今回は映画祭の実行委員会からお声がかかって、参加ということでしょうかでございます。以上でございます。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。この件に関しまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。</p>

<p>教 育 長</p>	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>ないようでございますので、この報告事項を了承させていただきます。</p> <p>続いて、平成29年度教育委員会指導室重点事業に係る取組状況調査・報告についての報告をお願いいたします。</p>
<p>市川指導室長</p>	<p>それでは、配付させていただいています平成29年度教育委員会指導室重点事業に係る取組状況調査（7月実施概要版）と記したものをごらんいただきたいと思います。</p> <p>こちらの調査は、毎年指導室重点事業として各学校に示しているものの進捗状況等について、毎年7月、それから、年明けの1月ごろを目途にその状況を調査しているものでございます。その概要を今回お示しさせていただいております。左上の小中連携教育から右下の江戸川っ子家庭ルールの取り組みまでそれぞれの項目について、他の項目も実際には調査しているのですが、主立ったものをご紹介させていただきたいと思います。</p> <p>まず、左上からお願いしたいと思います。まず、小中連携教育でございます。こちらは、小中連携教育プログラムというものを今年度、中学校を中心にそれぞれの地区ごとに作成することになっております。その作成をどういうふうに行っているか、教員全員で分担しながらやっているのか、それとも一部の教員がやっているのかというのが主な内容になります。小・中学校ともに大体同じような傾向なのですが、約6割の学校では全教員で分担して実施している、作成していると。残りの4割ぐらいの学校については、一部の教員が作成している、担当者の中で作成していると、そういったようなところでございます。</p> <p>ただ、コメントのところに書かせていただいたとおり、本来は、全教員が中心となって積極的に参画していただきたいという思いもありますので、できれば全教員が何らかの形でかかわるのが望ましいと、私どもは考えているところでございます。</p> <p>コメント欄、ちょっと説明が後になりましたが、こちらは、私どもから学校に対するメッセージということでコメントをつけさせていただいております。こちらを指導室からのメッセージとして校長会等で紹介していくといったものでございます。</p> <p>それから、次です。オリパラ教育の推進でございます。こちらは、本区の学校の特色ある取り組みとして、全ての学校、それから幼稚園で、オリンピック・パラリンピックコーナーを昨年度から設置するようにといった指示を</p>

しています。設置しただけでその後更新されているかどうかといったことがこの設問になります。定期的に更新されているかどうか。小学校では90%、64校が「はい」と、中学校については85%、28校でございます。こちらから保護者だけではなくて、地域の方からも非常にいいといった評価もたくさんいただいておりますので、ぜひ定期的に更新していくように促してまいりたいと思います。

次に、学力向上の取り組みでございます。こちらは全校で実施している補習教室で、外部人材を活用している学校があるのですが、どういった人が参加しているかといったものでございます。ちなみにデータはここには示していないのですが、そもそも小学校で外部人材を活用しているという回答の学校は12校でございます。その中で、学校応援団が10%、これが一番小学校では多いのですが、これは7校です。12校中7校。それから、2番目に多いのが学生で、12校中6校。続いて、3番目が地域の人材で、12校中4校と、そういうような数になります。

中学校のほうですが、こちらは外部人材を活用している学校が18校ございます。全部で18校でございます。その中で一番多いのが学生、これは18校中11校、33%でございます。次に多いのが学校応援団で、18校中7校。3番目が地域の人材で、18校中4校といった数になります。こちらは、学校に対しては、必ず外部人材を活用しなさいと言っているわけではありませんが、ただ、なかなか教員も今いろいろな対応業務が入っていて、個々の補習授業の対応についても限界があります。可能であればこういった外部人材を積極的に活用することもとても有効というふうに考えていますので、こういったデータを示していきたいと思っております。

続いて、学校関係者評価の取組状況でございますが、こちらは、学校関係者の評価委員会を各学校で実施しているのですが、年間何回設定しているかといったような設問でございます。私どもとしては、年度当初にまず計画をお示しする、それから中間の状況を評価いただく、それから年度末にも評価いただくと、年間3回以上が望ましいというふうに考えています。3回以上の数値を見ますと、まず左側、小学校では72%の学校が該当します。つまり71校中51校が3回以上開催するといった回答をしています。中学校については51%になりますので、33校中17校が3回以上開催すると回答しております。ですから、残りのグラフの下のほうのところの該当する学校については、今後も働きかけを行っていきたくと考えています。

続いて、学校図書館の活用でございます。小・中学校それぞれ小学校5年生、中学校2年生で、授業時間として学級でどの程度学校図書館を利用して

いるかと、その頻度を問うたものでございます。こちら小・中学校それぞれ実態が違うので何とも言えませんが、例えば、小学校においては、毎月複数回、2回以上活用しているといった学校が、小学校では91%になります。ですから、71校中65校が、一月あたり2回以上学校図書館を利用していると。中学校に関しては、これは教科担任とか中学校の特性もあります。小学校に比べると非常に頻度としては少なくなりまして、月に2回以上活用していると回答した中学校は12%になります。33校中4校でございます。

それから、学校図書館にかかわる教員研修でございますが、こちら小学校、中学校、若干温度差があるのですが、小学校では、実施していると回答したのが85%、71校中60校でございます。中学校については42%で、33校中14校でございます。こちらが、本区としては、この後ご紹介する読書科という特色もあります。ですので、今後もこういった学校図書館の活用については、いろいろな情報を流しながら積極的に促してまいりたいと思っております。

続いて、読書科の取り組みでございます。こちらは朝読書、読書科については朝読書といった時間と、後は45分、50分のまとまった授業としての時間と二つ学校は実施しているのですが、そのうちの朝読書等の計画を作成しているかどうかといったのがこのグラフになります。小学校については、「はい」と答えたのが86%、71校中61校でございます。中学校については94%で、33校中31校で作成していると答えていただきました。こちら学校ですから、計画に則って行うことがとても重要になってまいりますので、こちらこういったデータを示しながら適切に計画を作成するように促してまいりたいと思っております。

続きまして、体力向上でございます。こちらは、小学校では運動遊びについて、年間計画、それから資料を作成しているか。中学校については、保健体育科として組織的に補助運動の実施をしているかといったような設問でございます。小学校については、「はい」と答えたのが99%、71校中70校でございます。中学校については、こちらは体育科の教員が独自に行っていると回答したのが18%、これは33校中6校でございます。保健体育科の教員同士が話し合っているといった回答が82%、これは33校中27校でございます。こちらは、中学校の回答については、やはり学校として行うということですので、イの「教員同士が話し合い、系統的に行っている。」のほうが体制としては望ましいと考えております。

いずれにしましても、小学校、中学校それぞれ体力調査等の結果、また、別の日の教育委員会の定例会の中でもご紹介していきたいと思っておりますけれども

も、少しずつ結果が出ているというふうに担当からは聞いています。ですので、こうした取り組みは、今後も力を入れてまいりたいと思っています。

それから最後になります。江戸川っ子家庭ルールでの取り組みでございます。こちらは各学校で、まず事前指導を行った後に家庭で話し合っただけでルールを決め、それぞれ実行するといったものなのですけれども、その後、家庭での話し合いの後にクラスの中で実践について話し合ったりとか、あと、自分を振り返る時間など学校の中で設定しているかといったものでございます。つまり家庭で行ってそのままというのではなくて、その後の指導をきちんとしているかどうかといったような設問になります。こちらは、小学校では「はい」と答えたのが96%、71校中68校でございます。中学校は「はい」と答えたのが73%で、33校中24校でございます。

コメントのところにも書かせていただきましたが、私どもとしては、家庭での話し合いのこうした活動が非常に重要と考えています。やはり家庭によっても取り組みの温度差があります。子どもも認識の差がありますので、それぞれの話し合いの結果をクラスの中で共有することが、また次への活動への意欲、動機づけになる可能性も十分考えられます。ですから、こうした時間を丁寧に行うように促してまいりたいと思います。

ちょっと長くなりましたけれども、概要は以上でございます。よろしくお願いいたします。

教 育 長 ありがとうございます。この取組状況調査につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。

松 原 委 員 オリパラで、中学校が15%「いいえ」ということでありまして、コーナーが定期的に更新ということは、例えば、昨年バレーボールで誰か来てもらいました。今年それができなかったから「いいえ」という回答なんですか。

指 導 室 長 聞き方が、細かくは聞いていないので、どういうふうに捉えるかにもよるのですけれども、例えば、バレーボール選手が来ましたと。それが昨年であって、そのときにあわせてその方の掲示というか展示をオリンピック・パラリンピックコーナーにして、そのままということになると当然「いいえ」になるわけですね。ですから、「いいえ」にした学校は、昨年1回つくったまま1回も更新されていない可能性もありますし、後は、これは回答された方の解釈の問題で、定期的に更新されていますかという聞き方をしていますので、いや、二度、三度は更新しているんだと、でも、毎月決まった時期に定

	<p>期的にはではないという捉え方をされると、更新は何度かしているんだけど、定期的とは言えないよなというところで「いいえ」にされた可能性も実はあります。ちょっと設問が更新している頻度を聞いていないので、イエスかノーかで聞いていますので、そういった可能性が十分考えられるかなと思います。</p>
松原委員	<p>15%の「いいえ」ということは、5校ですよ、ちょっと多いかなって思ったんです。あと3年後になりましたので、江戸川区でも会場になっていますので、ぜひ生徒の子どもたちの意識を高めるためにもやってもらいたいなというふうに思います。コメントはこれでいいと思いますが。</p> <p>もう一点は、一番最後の「江戸川っ子家庭ルール」なのですが、やっぱり実態は、中学校としてはこうなのかなというふうな思いで聞いたのですが、なかなか今、室長が言ったように各家庭で話し合っ、原則保護者の責任でもあると思うんですけども、とはいってもなかなかきめ細かくいかないと思うんですけどね。そこで、やっぱり日常的に学校の中でどうしたらいいのかなということを考えてはいると思うんですけども、学級活動とか、道徳の年間35時間の中の一コマとか、学期に1回とかに、室長おっしゃったように振り返りをぜひやってもらえればなというふうに思いますね。</p>
指導室長	<p>今年度からは、それぞれ学期に1回ごと、1週間、ルールをチェックする期間というのを必ず学校ごとに設けています。松原委員おっしゃったように、できればそれにあわせて、そのウィークの初めと後にうまくそういった時間を位置づけていただくと、かなりしっかり活動できるんじゃないかなというふうに期待しているところではあるのですが、ただ、まだ学校によってちょっと温度差がありますので、そこは何とかしっかりしていきたいなと思います。</p>
松原委員	<p>やっぱりきめ細かなという点で、やっぱり小学校訪問して感じるのやっぱり細かいですよ、中学校よりもね。それはしょうがないことなのかもわかりません。それは。もっと中学校、学ぶべきところがあるんじゃないかなってね、思うんです。</p>
上野委員	<p>今の家庭ルールの点で、コメントのところに「家庭での話し合いの結果をクラスで共有する」云々と書いてあるね。家庭での話し合いをまたクラスへ持ってきて共有する、これは大切なのですが、結果をクラスで共有する前提</p>

	<p>として、まず家庭で話し合う場合の材料ですよね。あるいは題ですかね。だから、漠然としてではなくて今度話し合ったこと、家庭で話し合ってきたというふうなときに、何かやっぱり話題を共通の話題を前提として検討して、それで帰ってきて学校でやるということで本当の共有がされるんじゃないかと思いますね。そうすると、今度は、学校のほうからある程度保護者にこういうことについていろいろ議論してもらえませんかというふうなことを出したほうが効率的だと思うんですね。年間いろいろ変えてみてね。</p>
指 導 室 長	<p>それにちょっと関連しまして、例えば、学校によるのですけれども、家庭ルールの週間の前に学校だよりとかで、今月この週、この日からこういうふうにやりますと。こういうことで話し合ってくださいというふうにPRを積極的にしている学校もあるんですね。ただ、これも回答と一緒に学校によってまだ温度差はあります。</p>
上 野 委 員	<p>PRが必要だと思うんですね。仕方が命令的になっちゃいかんけど、こういうことが今、みんな問題になっているから家庭でお子さんと話し合ってみてくれませんかというふうなこと言うと、学校に来てどうだったという、僕のところは、私のところは、それはうちで議論しなかったから何も言えなかった、とかいうね。またそういうのを話し合っていくと。家庭で話すというのは一番今、欠けていることでしょう。そういうふうにして導いて、それが本当の共有じゃないかと。よくなるんじゃないかなって気がしますね。</p>
石 井 委 員	<p>の学力向上の取り組みについてでお伺いしたいのですけれども、まず、データの見せ方といたしまして、他のものは基本、全部の学校が答えてくれているわけですよね。一方では、学力向上の取り組みについては、小学校では12校が「イエス」、中学校では18校が「イエス」ということでして、でも、最終的なグラフとしては、小学校71校のうち10%が学校応援団、7校が学校応援団使っていますよというパーセンテージとしては全体に合わせるような見せ方になっておるのですが、ここではどうなんですかね。小学校12校が外部人材を利用しているよ、中学校は18校が外部人材を利用しているよというようなところも出されてはいかがでしょう。</p>
指 導 室 長	<p>そうですね。おっしゃるとおりでございます。私もそう思いましてご説明ではで12校、18校と申し上げたのですが、それを書いておくべきだったなというところで、修正させていただきたいと思います。ありがとうございます</p>

石井委員	<p>ます。</p> <p>あと、単純な質問が一つばかりあるのですが、同じ学力向上のところ、その他というのはどんな方でしょうか。</p>
指導室長	<p>小学校については、学校応援団としての取り組みを企画していると。だから、案にはまだなっていないんだけどもというような回答が小学校では1校ございました。あと中学校の3校は、時間講師、元学級指導支援員、そういった方、それから、教員免許所有者と回答された学校、あと退職された教員と。ですから、学校応援団でもなく保護者でもなく、広く言えば地域の人材になるのかもしれませんが、元講師の方とか退職した教員とか、そういったトーンで回答されているものをその他にしております。</p>
上野委員	<p>今のに関連していいですか。学生がすごく応援してくれていますね。参加者が中学の方が非常に多い。この学生はどういう学生が、お願いしているのでしょうか。自ら希望してやりましょう、と来ているのかですね。</p>
指導室長	<p>ちょっと正確な数はここではわからないのですが、可能性として考えられるのは、一つは、教育実習などの関係だった学生というのが一つ。あとそれから、中学校の場合は、卒業生が大学とかに行き、先生とのご縁で来ていただくということもあります。後は、教員と関係のあるような学生、学生同士がまた紹介して、それで友達を連れてくるとか、そういったような、いろいろなパターンがあると思います。</p>
上野委員	<p>母校の卒業生が、後輩にという場合には、個性が余りあり過ぎちゃ困るけど、そういう母校を愛する地域社会のかたちでいいですよ。うちの息子が弁護士になったばかりのころ、弁護士会で法教育などを提供する事業がありまして、大体高校生かな、中学も行くらしいですけども、法曹界なんかについて、こうなんだってというようなことをボランティアでやっていたんですよ。</p> <p>そういう今の法律にはなくて、学校から何か学生のそういう団体みたいなところをお願いするようなのがあるのかなと。インターアクトなんかそうですね。</p>
教育推進課長	<p>学生のボランティアですけども、学校応援団が担当する計画調整係からこの近辺の大学に対して、こういった学生ボランティアの募集ということ</p>

	<p>しております。</p> <p>そうすると、学生の方々は、ボランティアという実績をつくるために時々問い合わせてきます。その上で行きたい学校というのを希望してきます。大体、駅に近い学校に。それが学校にご紹介してうまく話が合えば、そちらで1週間なりのボランティアとしてかかわっていくというような学生さんたちが応募してまいります。そのようなこともあります。</p>
上野委員	自分が育てられた地域社会とは必ずしも関係ない人もいますか。
教育推進課長	関係ない人もいます。
古巻委員	<p>学校図書館の活用の部分とそれから、読書科の取り組みについての話ですが、これは中学校なんか反転してみると、活用していないのは、たった12%、4校しかない。これはかなり読書科の取り組みが非常に高くなっているということですね。図書館のほうは2年生に限定にしての調査のようですけども、連関性といいますか、要するにトータル的に読書とか図書館利用というのは、これから考えていかなきゃいけない問題じゃないかなというふうに私は思うんですけども、その辺のところはいかがですか。</p>
指導室長	<p>まず朝読書というのは、基本的には一人ひとりが読む本を事前に決めておいて、教室の中で、普通教室の中で、10分とか15分読むと、そういったような類のものでございます。読む本は図書館から持ってきたりとか、自宅から持ってきたりとかですね。そういった、本に接する時間というような時間です。</p> <p>真ん中にお示した「学校図書館を利用」というのは、授業としての時間になりますので、小学校の場合は、多くの学校が国語の授業の1コマを図書館に行って学習する時間というのを割とシフトで組んでいます。中学校の場合は、当然、教科担任で国語、数学、社会、数学、それぞれ別の教員がやりますので、決まった時間、50分丸ごと図書館に行って授業をするということは通常考えられないですね。ですから、例えば、理科なら理科の授業の中で調べ物が必要になったと。その50分の授業の中で、5分とか10分とか限られた時間、関係する生徒が図書館に行って本を探して、それをまた理科室に持ってきてそれを使って学習ということは当然考えられるんですけども、まとまった時間で中学校が学校図書館でというのは、なかなか現実としては難しいというふうに思います。ですから、全くこのデータをもって中学</p>

	<p>校が学校図書館を活用していないというふうには子どもは実は思っていませんで、これは小学校、中学校それぞれ実態が違うので、こういった調査の仕方をしてしまうとそういうふうには差が出てしまうのかなと思っているところです。</p> <p>ただ、教員研修の部分で、小学校、中学校差が出ているのは、やはり小学校の場合、全科の教員が基本ですので、やっぱりどの教員も自分で子どもたちを図書館に連れて行って指導するというのがありますので、必要感に迫られている部分はあるかと思います。中学校に関しては、先ほど申し上げたとおり多くの教員が一部分、限られた時間での生徒指導になりますので、やっぱり必要性という意味では、小学校ほど感じていない先生方が多いのではないかなと捉えています。そうはいても、これから本区で目指すところとして、中学校でもいろいろな教科などで学校図書館を効果的に使ってほしいなと思っていますので、この教員研修を実施している中学校の割合が42%というのがやっぱり低いかなと、これはもっと伸ばしたいなと思っているところでございます。</p>
上野委員	<p>今の聞いていると、朝読書とか読書科とか、これは生徒本人が自分が読みたいなという本を自由に選んで読んでいるという感じで受けたんですけど、それ以外のは、何か各授業の補助的なためのもののように聞こえたんですが、そうになっていっちゃうわけですね。</p>
指導室長	<p>読書科については、朝読書は基本、自分で選んだ本を読む学校が圧倒的に多いかなと思います。ただ、読書科としては今後もそうなのですが、本を使って調べながら学習するというのをこれから充実させていきたいと思っています。ですから、朝読書の時間だけの本はもちろん読むんですけども、その他の読書科の時間、きちんと45分とか50分の塊での読書科の時間というのも設定していますので、そこでは、本を使って自分の疑問を解決するとか、そういった活動をやっていく必要もあります。そういった活動を今後さらに推進していきたいなと思っているところでございます。</p>
教育長	<p>よろしいでしょうか。他になければ、ただいまの報告事項を了承させていただきます。</p> <p>続きまして、いじめ電話相談について報告をお願いいたします。</p>
市川	<p>よろしくをお願いいたします。</p>

教育研究所長	<p>9月分のいじめ電話相談についての報告をさせていただきたいと思いません。</p> <p>9月については、1カ月でいじめ電話相談の相談はございませんでした。0件でございます。以上でございます。</p>
教 育 長	<p>この件について、ご質問等ありましたらお願いします。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
教 育 長	<p>ないようですので、了承させていただきます。</p> <p>続いて、親子餅つき体験教室の実施についての報告をお願いいたします。</p>
教育研究所長	<p>続きまして、第14回親子餅つき体験教室について説明をさせていただきたいと思いません。</p> <p>こちらは、資料には書いていない点ですが、平成16年度から毎年実施しているものでございます。目的としては、餅つき、それから、同時に手づくり工作も行うのですけれども、そうした活動を通していろいろな人と触れ合うことでよりよい人間関係づくりとか社会性の育成に資するというのが大きな役割でございます。また、餅つきということで、日本の伝統文化にも触れるという機会になります。</p> <p>実施日は、今年度は12月2日土曜日の午前10時からを予定しています。対象は学校サポート教室に通室している児童・生徒、それから、各学校から推薦していただいた小学校3年生から中学校3年生までの不登校傾向の児童・生徒、それから、その保護者でございます。場所は、東葛西中学校の体育館等を借りて行いたいと思いません。費用については、一人300円、これは食材費でございます。こちらは、学校サポート教室に通室している子どもたちについては、各サポート教室で集金しまして、それ以外の方については、当日持参していただくといったところでございます。募集人員は50名程度ということで、多少多くても十分対応できるというふうに思っています。</p> <p>こちらについては、今日お配りした資料は、これを各学校長宛てに流しておりまして、それぞれ該当するお子さんに声をかけていただくという流れになります。2枚目については、このチラシでございます。地図等を記載しております。概要は以上でございます。よろしく申し上げます。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。第14回になるんですね。お話ありました。この</p>

	件に関しまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。
上野委員	保護者からの学校への申し込みと学校から教育研究所への申し込みと二つ書いてあるけども、具体的にはどっちのほうが多いんですか。
教育研究所長	サポート教室からが圧倒的に多うございます。
上野委員	なんかどこかで聞いたんですよね。これ参加してくると子どもがすごく明るくなって帰ってくるというね。というふうに聞いたのでいい企画だなと思ってね。
教育研究所長	いろいろな工作も、青少年委員の方とかが準備してくださっております。
上野委員	ただね、本当にそういう子が出てくればいいですが、不登校傾向の児童というものが、むしろまだ引っ込んじゃって出てこない。せっかくこんないい企画があるので、なるべく抵抗なく出て来られるようにしたいですね。
松原委員	結構、大勢来ると聞いたんですが。
教育研究所長	去年は、保護者が多かったのですが、子どもたちは23名。保護者の方が10名、合計33名の参加でございました。例年、大体、保護者合わせて30名ぐらいで推移しています。
上野委員	お餅食べるんでしょう。これ、いい企画ですね。
松原委員	すみません。ちょっと付け加えたいんですけど、平成16年からということで最初、さざなみの会の皆さんのボランティアで立ち上がって、こうやって研究所が行政という形で協働化を図って、学校宛ての通知文の小林先生って担当、下のほうに書いてある、今、毎週土曜日やっているぬくもり塾、すばらしい方で、地域のボランティアと研究所が一体となってどれもすばらしいなと思いますね。以上です。
教育長	よろしいですか。この件に関しましては。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕

教 育 長	<p>ないようでございますので、報告事項を了承させていただきます。</p> <p>以上をもちまして、平成29年第19回教育委員会定例会を終了いたします。お疲れさまでございました。</p> <p>閉会時刻 午後3時45分</p>
-------	---